

大原草紙

第90号
令和7年3月
春号



私の見た大原女 その4 敗戦から10年超え 大原女は

草生町 西田 誠



載せるのか」当り前の姿だから無口な僕はただ「うん」と言うのみ。ようやく社会人になって「大原女」の姿が特異と知ったのでした。

柴、割木を京まで大八車・バタコで売りに行く

山で乾燥させ、家に持ち帰った薪は京のかまどに合せてコナゲ、束ねる。

大八車の荷造りが大変、「花園橋の検問所」を越えねばならない。米や割木は見つかる没収される、柴で四方を囲って検問所突破を図る。

そんな時代も昭和 30 年代に入ると少なくなり、柴を売って所帯のやりくりをしていた大原の家々の台所も石油コンロやプロパンガスが主流になり、大原女が柴を頭に頂く姿や山へ仕事に向かう姿もメッキリ減ってきた。

この頃から三千院や寂光院を訪れる観光の人が目立ち始めてきた。その人たちが近所のおばさん達が荷物を頭に載せている姿を不思議そうに珍しい物を見るように見ていた。学校の行き帰りによく尋ねられた「この辺のおばさんは皆、頭に物を

先年、観光保勝会の仕事をしていた大長瀬町の早川昭子さんが東京でイベントがあって「伊豆大島のアンコ」さんと「大原女」の衣装の着付けを共にした。大原女衣装は着やすく、動きやすいと大好評だったと聞いた。「そうやろ、アレは仕事着、自分の身長より長い柴を頂いて山の急斜面を降りてくるのやから」そう応じたがその姿も近年は見るとは思えない。

生活様式がスッカリ変り、和服が特定の職種の着物。四季折々に着物を着た時代が、人生で何度着物を着るか、の時代。山の価値が「負の遺産」と言われる時代。

大原観光保勝会が「大原女祭」を継続してやっっていなかったら大原女の衣装や姿は大原からも絶えていただろうと考える、絶滅危惧種の大原女を残している保勝会の功績は大きく賞賛されてしかるべきだと思います。

1年を振りかえって

理事長 高倉哲法

平素より里づくり協会の運営につきましては、地域の皆様からのご理解、ご支援を頂き誠にありがとうございます。里づくり協会も新体制となって、初年度の活動を振り返ると、「高齢者の居場所づくり」「大原各町の史実・伝説を訪ねて里歩き」「大

原10名山登山会」「和太鼓サークル 里っ鼓」「子育て支援グループ はれひな」の活動、「大原文化センターでのアート展示」「SNSの発信」等各事業ごとに活発に展開しています。今後も大原の里を安らぎと潤いのある里づくりに寄与する新しい事業を里づくり協会から展開したい方やアイデアも募集しております。今後とも里づくり協会の活動に対してご協力、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。



大原各町の史実・伝説を訪ねて里歩き

第1回 上野町

第2回 野村町 西田 誠

里づくり協会が大原自治連合会と大原古文書研究会のご協力と左京区役所の補助金の交付を受け「大原各町の史実・伝説を訪ねて里歩き」の取り組みを行いました。昨秋10月20日、上野町(38名)11月17日、野村町(50名)総勢88名(スタッフ含)の方が参加。大原の既住者と移住者が互に理解して共生し明るい地域社会をつくるための取り組みで観光ガイドブックにない大原各町の歴史や暮らしの場所を訪ね歩き大原を身近に感じてもらうために開催しました。



上野町は久保齋さん、高田潤一朗さん、高田深幸さん、野村町は山下勉さんにご案内頂きました。



参加された方は「移住者なので大原の歴史を知れてよかった。」「お弓と扇状地の地層、水に関わる話に興味があった」「十一面観音像を見せてもらって有難かった」「大原の造り酒屋さん跡を見られてよかった」「伝統行事が人と人の関わる機会を増やす環境を作っている事に感動した」などの感想や運営の工夫についてご意見などを頂きました。次回は各町と調整中。春と秋2シーズンに分けて実施する予定です。ご期待ください!

年忘れ大原寄席!



昨年12月7日(土)に京都大学の落研(落語研究会)のお二人を招いて大原寄席が開催されました。3席を披露していただき学生さんとはいえ、お上手でどンドン話の中に引き込まれていきました。途中、笑いをこらえられず噴き出す場面もありとても楽しかったです。質問コーナーではなぜ落語を?と聞かれ「時代を超えても笑いが通ずる、奥深さに魅力を感じた」とおっしゃっていました。感性豊かな若者に拍手喝采です。

寄席の後、大原文化センターの前で待っていてくれたのは、「移動スーパーとくし丸」夕食のお買い物もできました。





はれひな
クリスマス
パーティー

12月8日(日)11時~大原文化センターにて子育て支援グループ「はれひな」のクリスマスパーティーを開催しました。クリスマス感いっぱいの工作やパネルシアターを楽しみ、ひと足早い大原感強めのサンタさんにプレゼントと畑のお野菜をもらい子ども達も保護者も大盛り上がりでした。子どもの夢と大原の方々の愛情いっぱいのとても素敵なクリスマス会となりたくさんの笑顔があふれました。関わってくださった皆さまありがとうございました。

今後、はれひな公式 LINE でイベント情報を配信していきますので、お友達登録をお願いいたします。



和太鼓サークル
里っ鼓

1周年を迎えて

是恒 高洋

里っ鼓も早いもので1周年を迎えました。支えて下さる地域の皆様のおかげです。本当にありがとうございます！

発足1年で「里っ鼓祭り(自主企画)」「百井夏祭り」「いずみ保育園夏祭り」「区民運動会」「久多秋祭り」と沢山の場で出演させて頂きました。12月に開いた総会では老若男女と一緒に取り組み、上手くなった子ども達が年配の方に教えるなど一緒に成長しているサークルは他にないと言うお声もありました。心も身体も暖まるサークルをこれからもずっと続けて行きたいと思えます！



大原文化センター 3月・4月のイベント情報

3月15日(土)
~4月15日(火)
昆虫から見た大原
オオムラサキの会

4月19日(土)
~30日(水)
スケッチ展
春の大原

4月27日(日)
10:30~14:30
大原ミニマルシェ vol.3
MARCHÉ

大原ミニマルシェ Vol.3
~はれひなもくるよ~
4月27日(日)
10:30~14:30
場所:大原文化センター
おいしいものがいっぱい!! かわいい雑貨やワークショップ、大原子育て支援グループ「はれひな」の催しもあるよ!! みんな遊びに来てね!
詳細は @satokyo_ohara、はれひな公式 LINE にて



アイシングクッキーを
作ってみよう!

こんにちは! アイシングクッキーを製作販売している「菓子きらく」です。つどいの広場ぴーちくぱーちくさんで講座をさせていただいているご縁で4月に開催予定の大原ミニマルシェに参加させていただくことになりました! 皆様に体験していただきながら交流できるのを楽しみにしております。



公式 LINE
rika's cookie

各イベントの詳細についてのお問合せは NPO 法人京都大原里づくり協会まで TEL 070-9018-4133 (前田)

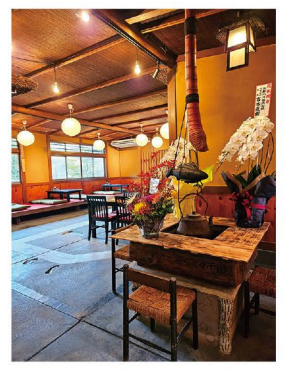


山猿そば

この度、大原リバー
サイドカフェキリン
が2024年11月23日
に大原バス停前に新た

に「山猿そば」をオープンしました！
二八そばとこだわりのお出汁に定番メ
ニューから、変わり種おそばやカレー
などもございます。店内は広々30席、
暖かい日はテラス席もご用意してお
ります。ご希望があれば和室の個室もご
ざいますので様々な集まりでのご利用も可能
です。お気軽にお問合せ下さい。

併設のスペースではテイクアウトドリンク
やドーナツなども販売、春には山猿商店とし
てお土産や地物コーナーもオープン予定！
出品も募集しております。



定休日：火曜日(臨時休業有)
営業時間：11時～14時30分
テイクアウトは11時～
16時頃(早終い有)
TEL 075-585-2526
📍 山猿そば ohara-yamazarusoba

開局！ オーハララジオ

音吹畑
高田潤一郎
(上野町)



2022年からオーハララジオというポッドキャスト番組
を配信しています。番組では、大原に関わる人、大原
の歴史、もの、事象、場所などを様々な角度から深掘
りしています。里の今昔あれこれを切り取ることが楽
しく、しば漬け、古文書から分かる地域史、巫女さん
のお話などなどをこれまでに記録して
きました。ぜひご拝聴ください！取り
上げてほしい内容など情報いただけれ
ば嬉しいです！



大原草紙 記事募集

皆様からの挿絵や大原のイベント情
報、告知したいことなどがありまし
たら下記へご連絡ください。掲載の
有無についてはこちらで決定させ
ていただきますことをご了承ください。

■ NPO 法人大原里づくり協会
大原草紙担当 前田
TEL 070-9018-4133

大原ほっと♡メッセージ

子育て世代を感じる大原の魅力

京都市在住 布居 直子

私は現在、大原学院内にあるつどいの広場「ぴー
ちくぱーちく」に次女を連れて行かせてもらって
います。この秋、広場内のパンフレットで大原サミ
ットを知りました。兼ねてから、今後の子育て環境や
住まいを考えていた中でしたので、家族でサミット
に参加しました。

サミット内の授業見学は、特に印象的で貴重な体
験でした。どの学年の授業も生き生きとした雰囲気。

先生の一人一人への目配り。生徒の取り組む姿勢。
少人数の学級はこどもたちの自主性が育ちそうだな
と思いました。

また、サミット全体では学校はもちろん、地元
のみなさんからのおもてなしを受け、温かい気持ちに
なりました。「ぴーちくぱーちく」でも、いつもスタッ
フさんに包まれるような安心感を頂いています。私
は大原の魅力の一番は人だと感じています。

大原学院のこどもたちは一人一人が大原の自然、
学校、地元のみなさんに包まれ、大切に育てられて
いる恵まれた環境だなとサミットに参加して感じま
した。貴重な機会に家族で参加できたことを嬉しく
思います。ありがとうございました。